

## 大阪公立大学文化資源学会 第2回大会報告

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 大阪公立大学文化資源学会 公開日: 2023-03-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 沼田, 里衣 メールアドレス: 所属: 大阪公立大学
URL	<a href="https://ocu-omu.repo.nii.ac.jp/records/2006565">https://ocu-omu.repo.nii.ac.jp/records/2006565</a>

## 大阪公立大学文化資源学会 第2回大会報告

沼田 里衣

---

2022年6月3日（金）17:00から19:30まで、大阪公立大学学術情報総合センター1階文化交流室にて、大阪公立大学文化資源学会第2回大会が開催された。プログラムと発表概要を以下に報告する。

### ・ 総会

会則を確認し、学会の名称を「大阪公立大学文化資源学会」に改変することを決定した。

### ・ 「『集古十種』にみる新たな菅公図像の創成—故実家と国学者それぞれの想い—」

発表者：虎間英喜（文学研究科文化構想学専攻文化資源学専修 2021年度修了生）

本発表は、松平定信（宝暦8年-文政12年：1759-1829）が編纂し、19世紀初頭に成立したと考えられる『集古十種』に掲載された荒井千春（享保8年-文政9年：1723-1826）が描いたとされる菅公図像を取り上げ、故実家と国学者がそれぞれどのように捉えていたのかを検討したものである。発表者は、前者が社会秩序の維持、後者が信仰のあり方を見据えるという相対する捉え方をしていたと結論づけた。

### ・ 「大岡春卜画『明朝紫硯』に見られる蘇州版画からの影響について」

発表者：崔旖（文学研究科文化構想学専攻文化資源学専修 研究生）

本発表は、大岡春卜（延宝8年～宝暦13年〔1680～1763〕）の『明朝紫硯』における、中国の版画より受けた影響について、考察したものである。従来の日本美術史において『明朝紫硯』に関する研究は乏しく、当時輸入された中国の蘇州版画からの影響もあると指摘されていたが、具体的な図柄

の比較は行なわれていなかった。本研究では、蘇州版画からの影響が顕著に見られる特徴を列挙した上で、『明朝紫硯』と蘇州版画の関連性を明らかにした。

- ・ 特別講演「ボランティアから起業へ ～一歩進んだ学生生活の実態～」  
講師：野田 蛍太 （一社）CSK 代表理事、CSK 株式会社 前代表取締役社長、（一社）アバターロボット普及協会 前代表理事、大阪府立大学現代システム科学域マネジメント学類 4 回生)

本講演は、野田氏が大学在学中に起業するまでの経緯と事業内容、及びその実体験についてお話を伺った。氏の活動は、活発にボランティア活動に取り組む中で生まれた「地域コミュニティ」の有り様の疑問から生まれたものだが、「インパクトのある活動を実行したい」、という力強い思いが募っての企業や様々な事業を行う過程のエピソードは、大変機知に富むものであり、多くの質問があった。

発表は、それぞれ質疑応答も活発に行われ、講演では具体的な質問も多く、盛会のもとに終了したことを報告する。